

福井市林業水産業振興プランの概要

水産業

理念 『福井の恵みを活かした水産業の再興』

目標年次 平成 27 年度

現状

- ・ 漁場機能が低下して漁獲量が減っている
- ・ 魚価が安くて所得が安定しない
- ・ 燃油高騰・クラゲ被害で経営が苦しい
- ・ 漁港施設の近代化が進んでいない
- ・ 漁村地域の人口減少で活気が足りない
- ・ 優れた遊漁の場がありながら誘客に活用していない

- ・ 水産物のブランド品が見当たらない

- ・ 魚介類の消費量が減っている
- ・ 魚をさばける人・食べ方を知っている人が減っている

目標

1. 力強い漁業生産力の向上を図る
～ 生産の向上～

指標《漁業生産額》

平成 21 年度 419 百万円 → 平成 27 年度 480 百万円

2. 魅力ある福井市の水産物を創出する
～ 流通の促進～

指標《新たな水産加工品の創出数》

平成 27 年度 3 品目
商品として販売できるもの

3. 親しまれる魚食普及を推進する
～ 消費の拡大～

指標《魚介類の消費量》

平成 21 年度 36 kg / 年 → 平成 27 年度 41 kg / 年

方針

1. 持続的な水産資源の利用をめざして
2. 漁業生産額の向上をめざして
3. 漁業経営の安定と就労環境の改善をめざして
4. 活気ある漁村地域の創造をめざして

5. 福井市の水産物の特産化をめざして

6. 食生活における魚食普及拡大をめざして

施策

1. 漁場環境の保全
2. 稚魚・稚貝の放流
3. 養殖技法と未利用水産物加工技術の開発
4. 漁獲物の品質向上
5. 漁業経費の負担軽減
6. 漁港施設・漁業関連施設の整備
7. 漁村地域の活性化
8. 遊漁による誘客

9. 新たな地元水産加工品の創出

10. 地元水産物の消費拡大
11. 魚食普及活動の推進

効果

1. 良好な漁場となり、水産資源が確保される
2. 魚介類が増え、水産資源が確保される
3. 漁獲が安定し、収入の増加につながる
4. 市場での評価が上がり、魚価が高くなる
5. 経営が安定し、漁業が続けられる
6. 労働環境が改善し、安全性・快適性が確保できる
7. 多くの人が訪れ、漁村地域との交流を通して活気ができる
8. 多くの人が訪れ、観光にもつながる

9. 福井の魚が有効活用され、ブランド品が生れる

10. 福井の魚の良さが伝わり、地魚の消費が進む
11. 魚食が見直され、魚介類の消費が進む

[施策] に対する取り組み

施策1 漁場環境の保全

- 生息環境を保全する漁場の海底耕耘の実施を支援します。
- 間伐材魚礁の設置や岩のり場の整備を行い、漁場造成を推進します。
- 漁場環境の保全のため、海岸や河川の清掃活動や植樹活動を支援します。

施策2 稚魚・稚貝の放流

- ひらめ・まだい・あわびなどの放流を支援します。
- 生残率向上につながる効果的な育成や放流の手法を調査・研究します。
- 鮎やさくらます（やまめ）などの淡水魚の稚魚放流を支援します。

施策3 養殖技法と未利用水産物加工技術の開発

- 福井市沿岸で取り組み可能な養殖技法の調査研究を行います。
- 海藻などの未利用水産物を活用する取り組みを支援します。

施策4 漁獲物の品質向上

- 優れた衛生・品質管理設備の導入を支援します。
- ばふんうにの実入りの向上など、品質向上を図る取り組みを支援します。

施策5 漁業経費の負担軽減

- 漁船・漁具の改修や購入、漁業共済加入などの負担軽減を支援します。

施策6 漁港施設・漁業関連施設の整備

- 防波堤、係留施設や荷捌施設、漁具倉庫などの整備・補修を推進します。

施策7 漁村地域の活性化

- 漁村地域の魅力を伝えるイベントなどの開催を支援します。
- 稚魚放流や定置網漁などの漁業体験への取り組みを支援します。

施策8 遊漁による誘客

- 人気のある釣り場や釣りマナーなどについて、ホームページ等を利用した情報発信を推進します。

施策9 新たな地元水産加工品の創出

- 地元水産物を使い、創意工夫を凝らした加工品の開発を支援します。
- 水産加工品を普及させるため、イベントなどを活用したPRに取り組みます。

施策10 地元水産物の消費拡大

- 関係団体と連携を図り、直売などの活動に対し、PRに取り組みます。

施策11 魚食普及活動の推進

- 学校給食での地元水産物の活用や公民館・学校等での魚の捌き方・料理教室を開催するほか、旬の魚を用いた料理方法の情報を提供します。
- 「休日は魚を食べる日」の提案や、魚は健康な身体をつくる礎となる食材であることのPRに取り組みます。